

訪日外国人のラフティング参加動機に関する研究

- みなかみ町におけるラフティング参加者に着目して -

スポーツビジネス研究領域

5015A013-8 神田治知

研究指導教員：原田 宗彦 教授

1. 緒言

訪日外国人旅行者は近年急激な増加傾向にあり、2016年10月には年間2000万人を超え、観光庁は次なる目標を2020年までに訪日外国人旅行者を年間4000万人以上と設定するなど、今後も増加が続くものと考えられている（日本政府観光局，2017）。また外国人旅行者の動向にも変化が見られ、大都市周遊旅行から地方都市旅行へ、ショッピングから自然等の体験型観光へと志向が変化しつつある（観光庁，2016）。このような現状を受け、観光庁はスポーツを通じて新しい旅行商品の魅力を創り出し、我が国の多種多様な地域観光資源を顕在化させ、訪日旅行観光の活性化を図っている（観光庁，2011）。

しかし、なぜ外国人旅行者が日本でスポーツをするのかという動機に着目した研究はまだ緒についたばかりであり、今後増加が期待される日本でスポーツを行う外国人旅行者の特性を明らかにするためにも、学術的な研究の備蓄が必要である。そこで本研究では、2014年以降外国人宿泊者数が毎年約150%増加し、かつラフティングというスポーツを観光資源としているみなかみ町（みなかみ町，2016）に着目し、みなかみ町でラフティングを行う訪日外国人旅行者の実態を把握し、そのラフティング参加動機を明らかにすることを目的とした。

2. 先行研究の検討

これまでのアドベンチャースポーツ実

施者に関する研究は、アドベンチャースポーツに特有な要素であるリスクやスリルに着目して行われてきた。またアドベンチャースポーツの参加動機に関する研究では、「目標達成」、「リスクテイク」、「仲間」、「非日常体験」、「自然」などの要素が重視されるが、各要素の重要度は参加者により異なる（Kerr，2012）ことが指摘されるなど、全容の解明には至っていない。そこで本研究ではDriver（1983）がアウトドアレクリエーションを理解するために開発したREP尺度を用いて、日本人のラフティング参加動機を明らかにした上政頼（2011）の8因子尺度を用いて訪日外国人旅行者のラフティング参加動機を明らかにする。ただしKozak（2002）が旅行者の国籍が異なる場合、動機において重視するものや、動機そのものが異なる可能性を指摘していることから、上政頼（2011）で明らかにされていない訪日外国人旅行者のラフティング参加動機がないか確認するため、質問紙作成前にインタビュー調査を行った。

3. 研究方法

本研究では訪日外国人旅行者の実態を把握し、ラフティング参加動機を明らかにするため、インタビュー調査と質問紙調査を行った。

4. インタビュー調査

みなかみ町でラフティングを行った訪日外国人旅行者を対象として、「なぜラフティングを行ったのか」、「なにを求めてラフティングツアーに参加したのか」を訪

ねるインタビュー調査を行った。分析には KH coder を用いた計量テキスト分析を行った（樋口，2004）。その結果、抽出された語句、抽出された語句と語句のつながりはいずれも上政頼（2011）のラフティング参加動機尺度にあてはまる内容であり、新規に追加すべき項目はないと判断されたため、本研究においても上政頼（2011）の 8 因子尺度を援用できると判断した。

5. 質問紙調査

質問紙調査はみなかみ町でラフティングを行う訪日外国人旅行者を対象として行った。ラフティングを終了した参加者に回答を依頼してその場で記入してもらう回答者自記式質問紙調査で行なった。137 名に質問紙を配布し、124 部の有効回答を得た。有効回答率は 90.5%であった。質問項目は上政頼（2011）を参考にしたラフティング参加動機 20 項目と個人的属性から構成され、英語化にあたっては英訳専門家のチェックを受けた。また統計解析には SPSS Ver. 23.0 ならびに Amos Ver. 23.0 を用いた。

6. 結果

質問紙調査の回答者は男性が 71.0% (n=88)、女性が 29.0% (n=36) であった。平均年齢は 34.4 歳、調査対象者の国籍はアメリカが最も多く 19.4% (n=24)、西洋文化圏、東洋文化圏で分類した場合、西洋文化圏が 50.0% (n=62)、アジア文化圏 38.7% (n=48) となった。

次に、ラフティング参加動機尺度の構成概念妥当性を検証するために確認的因子分析を行った。結果、すべての指標において基準値を逸脱しており、本調査のサンプルは上政頼（2011）の 8 因子モデルには適合しないことが示されたため、モデルの修正を行った。結果 5 項目が削除され、6 因子 15 項目となった。モデル適合度は $\chi^2/df=2.241$ 、GFI=0.907、AGFI=0.889、CFI=0.908、RMSEA=0.065 と

なった。AGFI（基準値 ≥ 0.900 ）は基準値に満たなかったものの、 χ^2/df （ $2.00 \leq$ 基準値 ≤ 3.00 ）、CFI、GFI（基準値 ≥ 0.900 ）及び RESEA（基準値 ≤ 0.80 ）は基準値を満たしており、妥当な値を得たと判断した。これらの結果、訪日外国人旅行者のラフティング参加動機は「自然」、「リラックス」、「学習」、「仲間」、「ガイド」、「興奮」から構成され、これまでアドベンチャースポーツにおいては重要な要素であると考えられていた「能力」、「リスクテイキング」因子がみなかみ町でラフティングを行う訪日外国人旅行者には重視されていないことが明らかとなった。

7. まとめ

本研究を通じて、みなかみ町でラフティングを行う訪日外国人旅行者の参加動機は「自然」と「仲間」は高い平均値を示していることから、仲間とのレジャー活動を楽しむ人々であることが伺える。また今回の調査において「能力」、「リスクテイキング」が外国人旅行者に重視されなかったという結果も、参加者がラフティングの激しい動きよりも風景などの環境を楽しむことを重視していたことが「自然」因子の平均値の高さから推察できる。このような人々を対象としてスポーツを提供するためには、スポーツからの目線だけでなく、観光資源としての目線でスポーツを捉えることも必要であると考えられる。具体的には激しい身体活動を伴うスポーツよりも、その地域の特色を楽しめるような観光的要素を含んだスポーツを提供することが好ましいと考えられる。